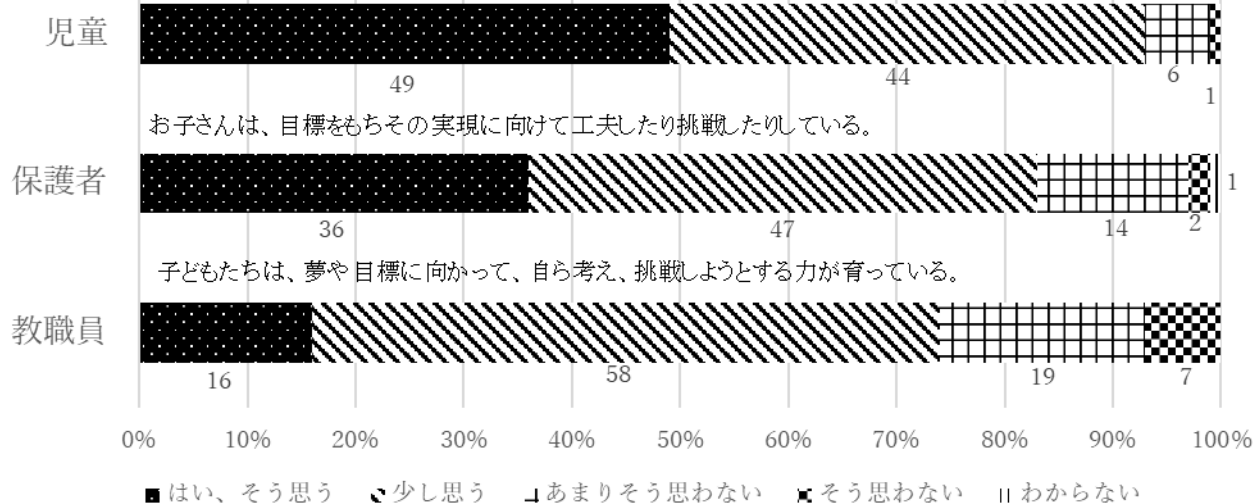


1. 目標・挑戦

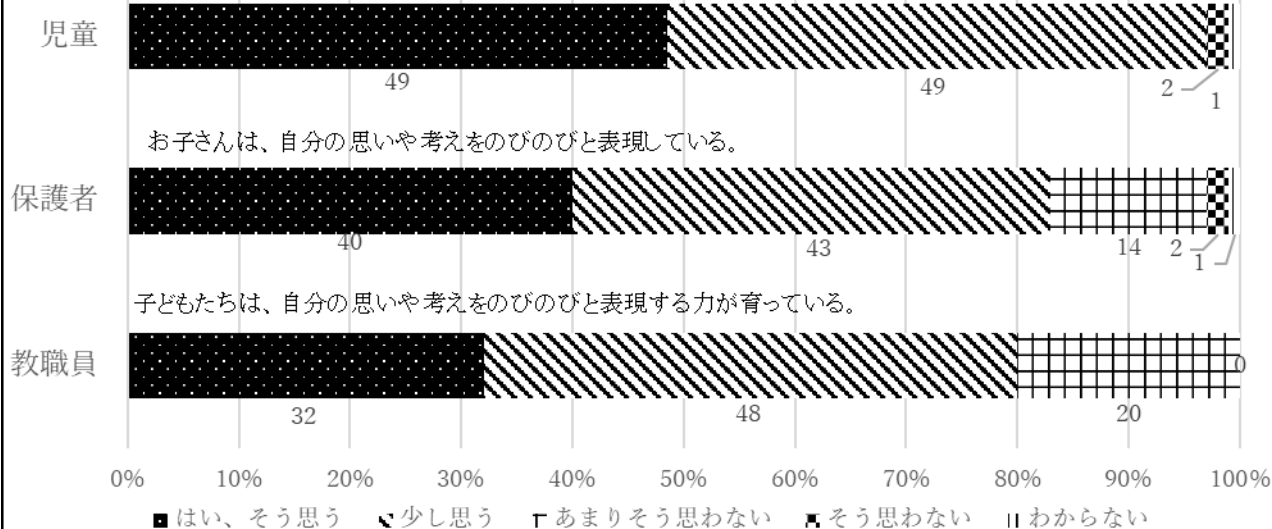
あなたは、目標(もくひょう)をもち、それを実現(じつげん)させるために、工夫(くふう)したり挑戦(ちょうせん)したりしていますか。



目標をもち、それを実現させるために、工夫したり挑戦したりしていると答えている児童が93%います。また、83%の保護者、教職員からも肯定的な回答を得ています。各教科や行事を通してキャリア教育を積み上げてきたことで、自分の考えや活動を具体的に振り返り、次へ生かす習慣が身についてきたと考えられます。一方で、保護者と教職員の中では、「そう思う」と答えている割合が児童に比べて低いです。児童の思いを大人も共有する必要があります。児童の学習活動の過程や児童の成長の変化が分かるように学級便りや学年便りで伝えたり、個別懇談や懇談会でお話したりしていきます。

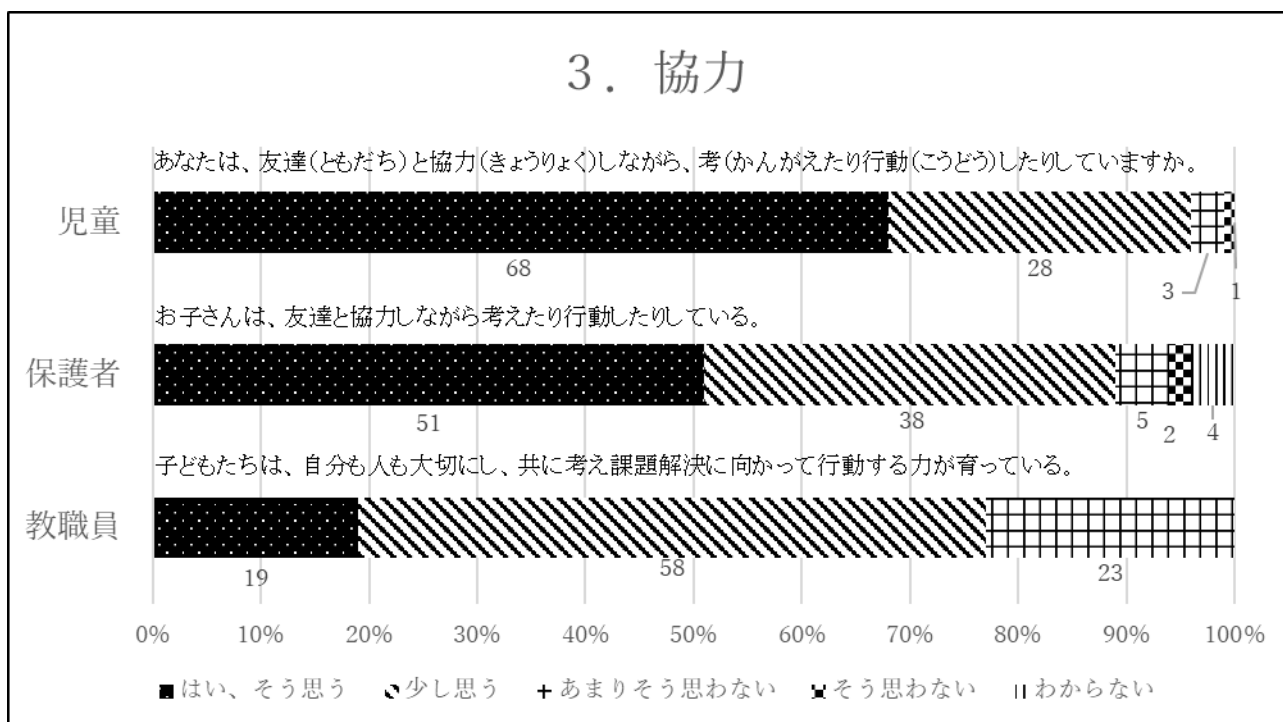
2. 表現

あなたは、自分(じぶん)の思(おも)いや考(かんが)えを、のびのびと表現(ひょうげん)し、まわりの人(ひと)に伝(つた)えていますか。



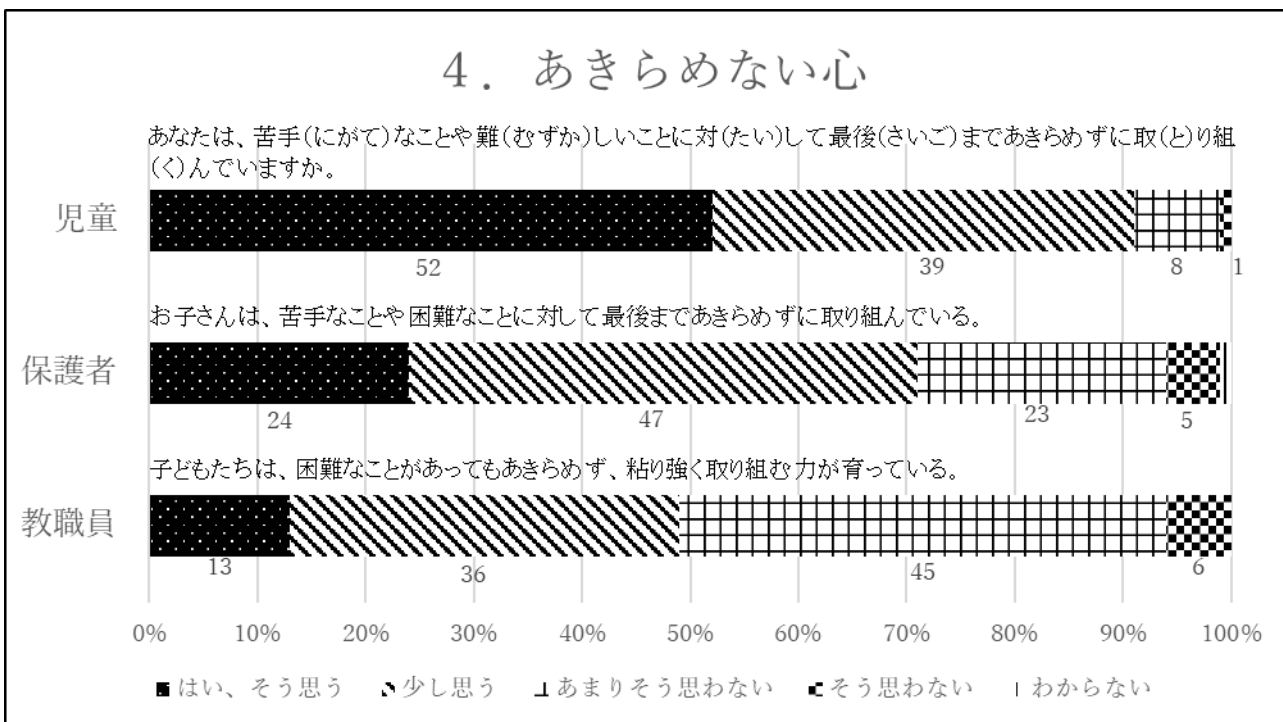
自分の思いや考えをのびのびと表現していると答えている児童が98%います。保護者からも肯定的な回答が83%となっています。同じく教職員も80%と高いものの、「はい、そう思う」が32%と控え目です。これは、表現することの重要性を感じ、その手立てを工夫しており、目標としている姿の途中という見方をしているためだと思われます。児童、保護者、教職員共に、より豊かに表現する力を身に付けたい、身に付けてほしいと望んでいると推測できます。子ども達の成長を認めながら、より主体的に自分の思いや考えを表現したり豊かな表現方法を身に付けたりできるよう指導を工夫していきます。

3. 協力



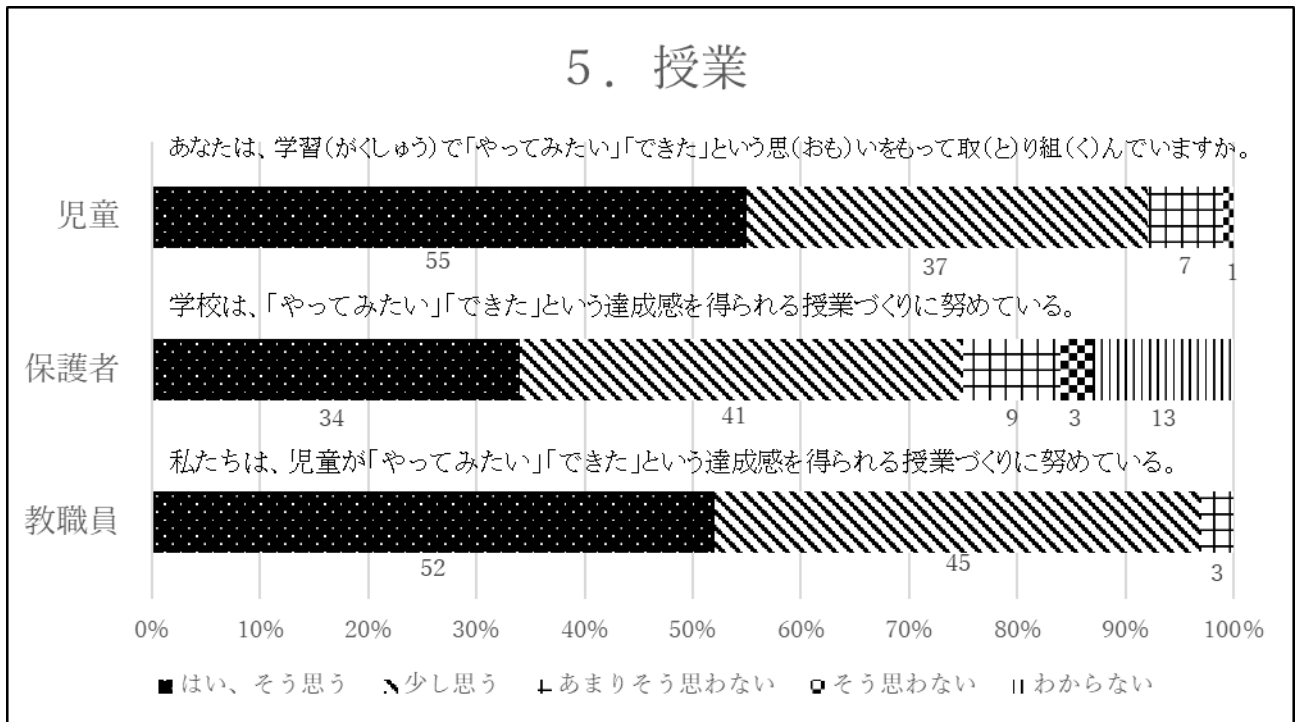
「友達と協力しながら、考えたり行動したりしている」と答えた児童が96%います。保護者も 89%と肯定的な回答をしています。学年集会や係・当番活動といった活動や共生共育など、授業でも意図的に協力して解決する場面を作っているのも、成果として現れているものと考えます。教職員が 77%と答えているのには、共同作業に苦手意識を持っている子、または苦手としている子もいるので、あまり協力ができていないと感じているのかもしれませんが。今後は、委員会活動を主体的にできる活動や協働的に学ぶ活動などの機会の確保に努めると共に、苦手意識のある子に対して支援していくよう努めます。

4. あきらめない心



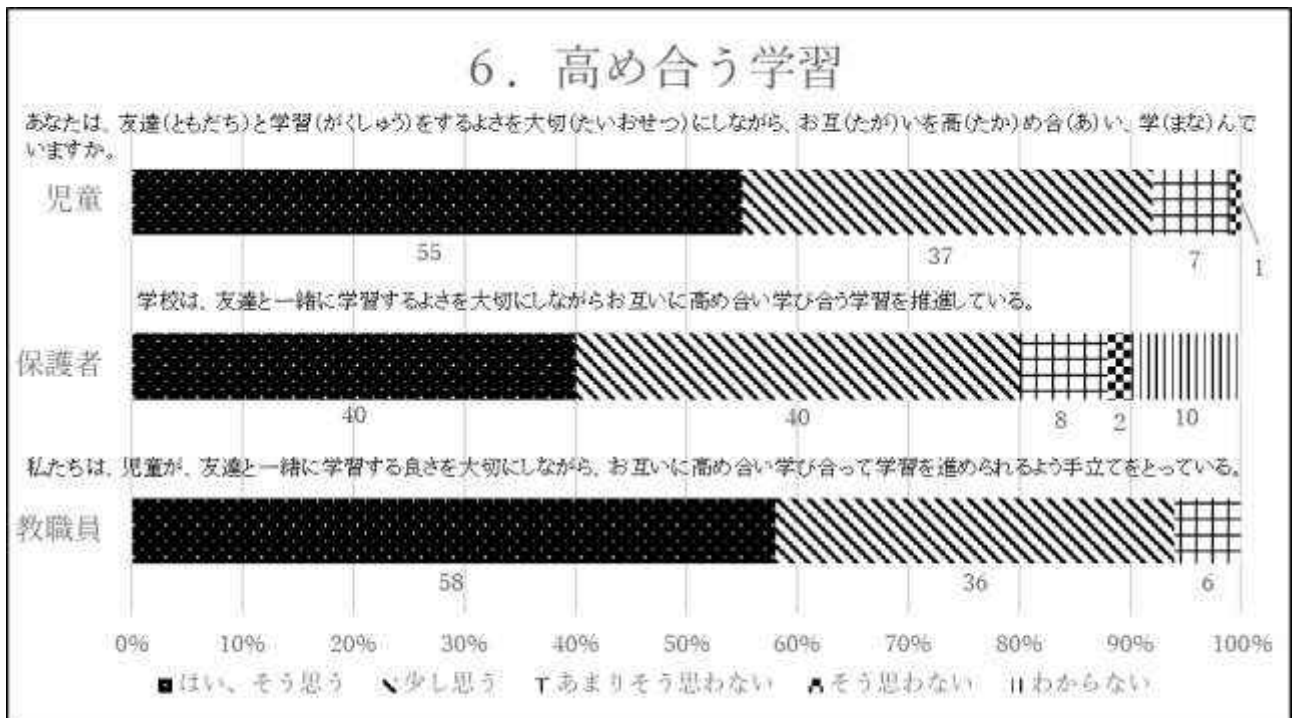
苦手なことや困難なことに対して最後まで諦めずに取り組んでいると答えた児童が、91%います。一方で、肯定的に捉えている保護者は71%、教職員は49%にとどまり、児童との差異が見られます。児童の頑張りと大人が求める姿に差があるように感じます。保護者や教職員は、苦手なことに向き合ったり、最後まで粘り強く取り組んだりすることを課題とする児童が多いと感じていると考えられます。粘り強く取り組むよさを経験させ、励ましたり価値付けたりしていきます。また、スモールステップで目標設定をし、見通しをもって活動できるようにしていきます。

5. 授業



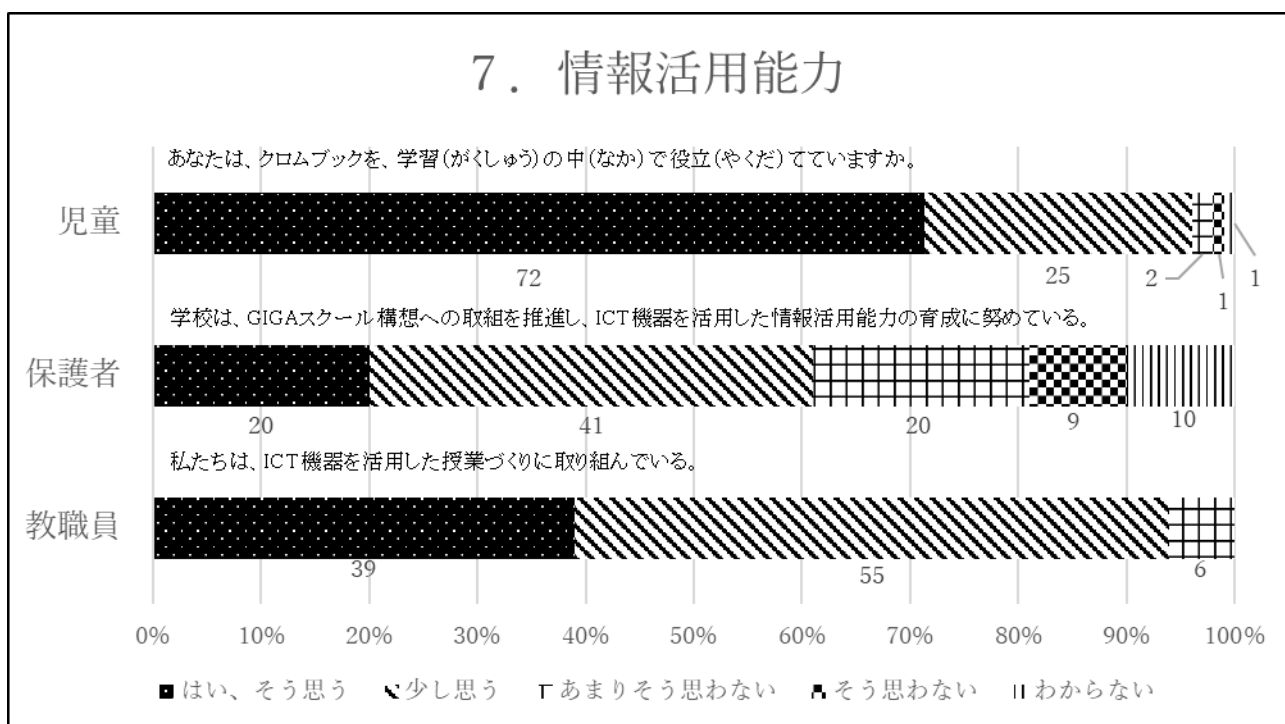
児童の92%が意欲的に学習に取り組んでいるという結果です。授業を通して児童と向き合う教職員の回答も90%台でマッチしています。今後もよい授業ができるよう工夫してまいります。一方、保護者の回答では「そう思わない」が3%、「わからない」が13%ありました。この数字を受け止めて改善を図っていきます。授業公開の時だけでなく、日々の授業の様子をお便り等で知っていただいたり、教育改革が目指す新しい学力についてお伝えしたりして、ご理解を頂けるよう努めてまいります。

6. 高め合う学習



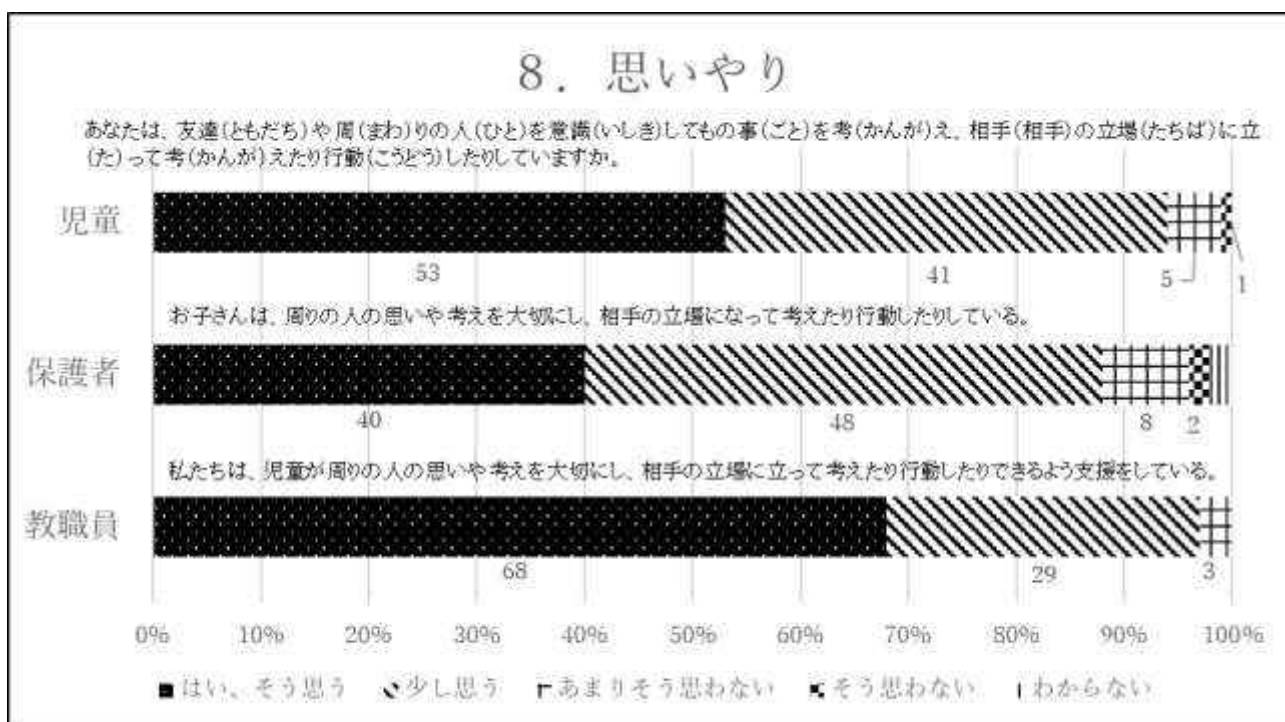
友達と学習するよさを大切にしなが、お互いを高め合っていると答えている児童が92%います。また、児童が友達と一緒に学習するよさを大切にしなが、お互いに高め合い学び合って学習を進められる手立てをとっていると94%の教職員が回答しています。見通しをもち主体的な学びにむけたカリキュラムの作成や各教科において思考力・判断力・表現力の向上を生かした授業改善が児童の学びの姿に結びついていると考えられます。保護者の方の回答は80%となっています。授業参観やオープンスクール、学校HP、お便りなどで、児童が友達と学び合い、高め合う姿を知っていただく機会を大切にしていこうにします。

7. 情報活用能力



「そう思う」「少し思う」と回答している児童、教職員が94%を超えています。授業の中で積極的に活用してきた成果と捉えます。一方で、保護者の回答は61%にとどまっています。今後も、授業でのICT機器活用のねらいや、実践の状況等をお知らせしていくとともに、ICT機器のより効果的な活用方法を考えていきたいと思ひます。授業で身に付けた情報活用の力をさらに伸ばしていけるよう、指導・支援をしていきます。

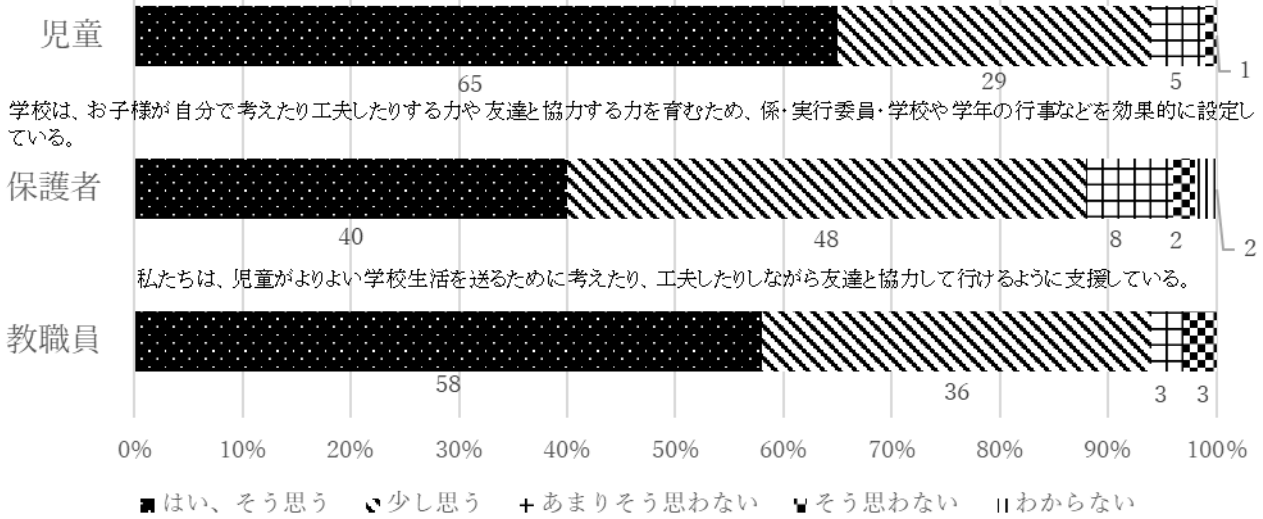
8. 思いやり



児童の94%、保護者の88%が周りの人の思いや考えを大切に、相手の立場になって考えたり行動したりしていると感じています。教職員も、97%が「そう思う」「少し思う」と回答しており、学校生活の中で周りの人の気持ちを理解し、相手の立場になって考え、思いやりの心をはぐくむことができるように引き続き取り組みたいと考えています。また、日常生活や学習活動を通して、お互いの思いや考えを尊重することや、多様な考え方があることを理解したりすることができるよう、成長段階に応じて人権意識が高まるよう取り組みます。

9. 工夫

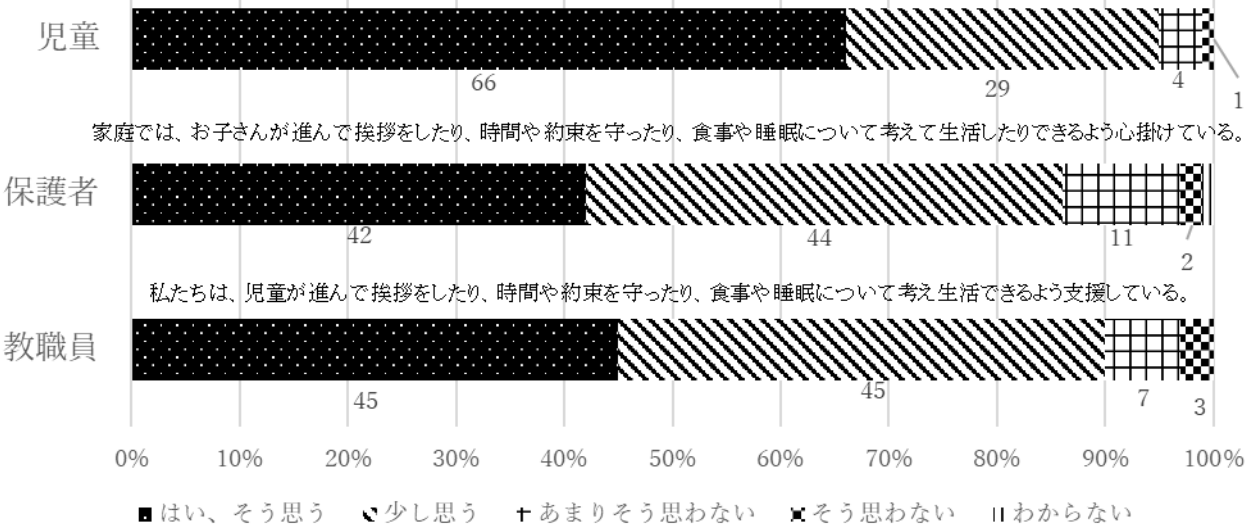
あなたは、係(かかり)や実行委員(じっこういん・学校(がっこう)や学年(がくねん)の行事(ぎょうじ)などに対して、考(かんが)え工夫(くふう)しながら友達(ともだち)と協力(きょうりょく)していますか。



係や実行委員、学校、学年の行事などに対して考え工夫しながら友達と協力していると答えている児童が94%います。また、教職員の94%も児童がよりよい学校生活送るために考えたり、工夫したりしながら協力していけるように支援をしていると答えています。各学年での取り組みや児童会活動、学校行事等が児童の主體的に活動する態度の育成につながっていると考えられます。保護者の方の回答は87%となっています。新型コロナウイルスの影響もありますが、引き続き工夫をしながら行事を検討し、児童が工夫したことや考えたことを表現する機会につなげていきます。

10. 生活習慣

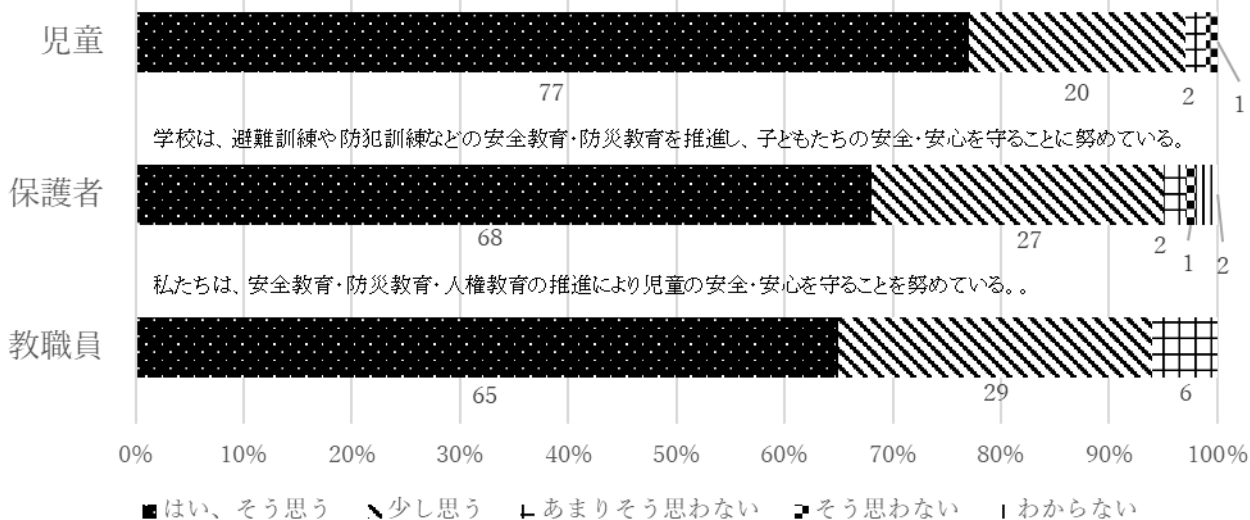
あなたは、身近(みぢか)な人(ひと)に進(すす)んであいさつをしたり、自分(じぶん)や周(まわり)の人(ひと)の安全(あんぜん)や健康(けんこう)を考(かんが)えながら、ルールやマナーを守(まも)って生活(せいいかつ)したりしていますか。



進んで挨拶をし、安全に気をつけて生活していると考えている児童が昨年度よりも多くなりました。児童会からの発信や、挨拶を意識して生活している児童が増えていることの表れだと思います。保護者目線では、もっと挨拶をしたり安全に意識して行動できたりするという子どもへの伸び代を感じている様子が伺えます。規則正しい生活を意識したり、時間を守ったりして行動できるよう声掛けを続けます。また、学校内や登下校の地域でも進んで挨拶ができる児童が増えたり、周囲の安全に気をつけて生活できたりするよう、日頃の指導を大切にしていきます。

1 1. 学校安全

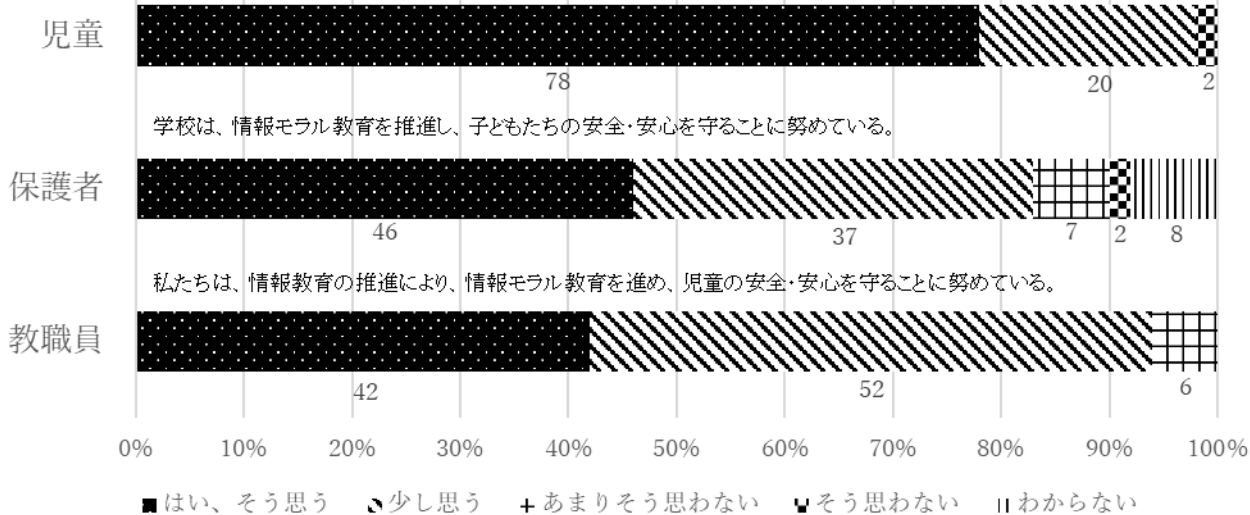
あなたは、地震(じしん)や火事(かじ)のときの避難(ひなん)の仕方(しかた)がわかり、交通(こうつう)ルールに気(き)をつけて登下校(とうげこう)していますか。



児童は、「避難の仕方を理解し、交通ルールにも気を付けている」との回答が97%と高い数値を記録し、保護者、教職員も共に94%以上と高い割合で「学校は児童の安心・安全を守る取り組みを推進している」と捉えていることが分かります。一方で、教職員の中では、防犯訓練・避難訓練・引き渡し訓練を年度初めに行うことで、いつ何が起きても対応できる体制づくりをするべきであるという意見や、消火訓練などの教師自身の研修があってもいいのではないかという意見も出てきました。これからも、現状に満足せずに、児童の安心・安全を守ることを第一に考え、より安心・安全な学校づくりに努めていきます。

1 2. 情報モラル

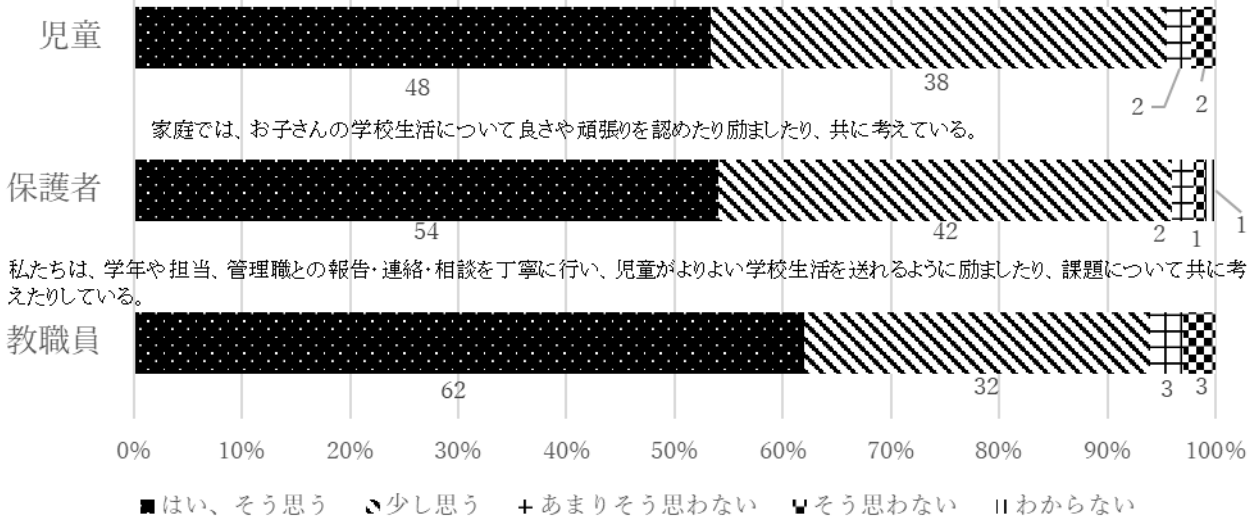
あなたは、クロムブックやインターネットのルールを守(まも)って使(つか)っていますか。



クロムブックやインターネットのルールを守って使っていると答えている児童は98%います。情報モラル教育を進め、児童の安心・安全を守ることに努めていると答えている教職員は94%います。一方で、保護者は83%です。児童・教職員と保護者の意識に差があります。学校で児童がクロムブックやインターネットを使う時は教員の指導下で行うので危険性は少ないですが、普段の生活では SNS 等も加わり、危険性の幅が広がります。保護者の方にとっては児童・教職員よりも心配に思うことが多いと思われます。情報モラルに関する内容を深め、今後も情報教育の推進に努めます。また、情報機器の安心・安全な環境づくりには、学校と保護者の連携が不可欠です。今後ともご協力をお願い致します。

13. 家庭力

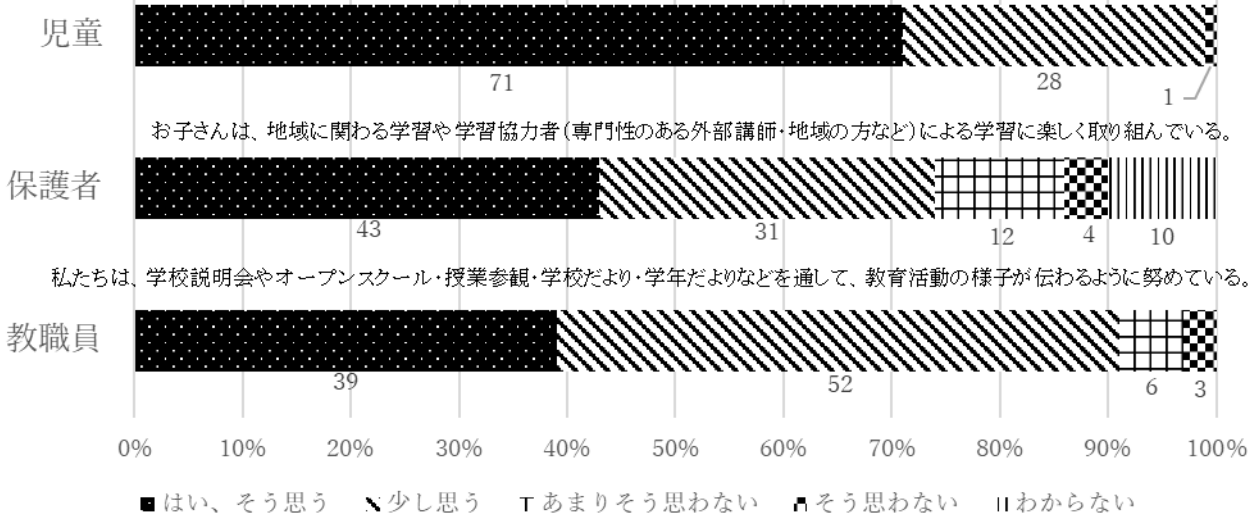
あなたは、お家(うち)の人(ひと)や学校(がっこう)の先生(せんせい)に、学校生活(がっこうせいかつ)の事や(こと)がんばったこと、がんばりたいことについて話(はな)し、一緒(いっしょ)に考(かん)がえることがありますか。



「学校生活について良さや頑張りを認めたり、励ましたり共に考えている」と感じている児童は、「そう思う」「少し思う」と答えた割合が86%、保護者は96%、教職員は94%と高い割合になっています。児童の中には自信のない子、成果を出してこそ認められると考えている子がいると推察します。今後は、子どもたちの頑張りをHPやお便りなどで話題提供をしていくと共に、個別懇談などを活用し、保護者との情報共有を大切にしながら、子どもたちのより良い成長に生かしていけるよう努めてまいります。

14. 地域との関わり

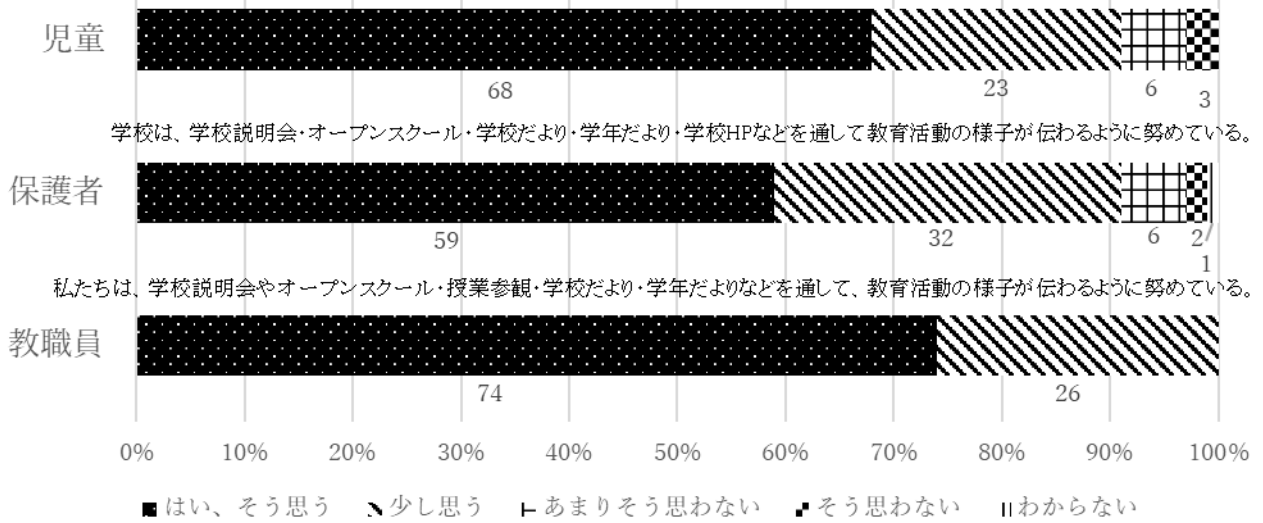
あなたは、上作延(かみさくのべ)の地域(ちいき)と関(かか)わる学習(がくしゅう)や、外(そと)から来(く)る先生(せんせい)の学習(がくしゅう)に楽(たの)しく取(と)り組(く)んでいますか。



地域とかかわる学習に90%以上の児童は楽しく取り組んでいるという認識をもっています。保護者は74%であるのに対し、教職員は91%と開きが見られました。昨年度から、感染症拡大防止の観点から、地域での学習やゲストティーチャーを招いての学習の機会を十分に設定できていなかったことや地域の方とかかわる学習を発信することが少なかったことが考えられます。地域での学びを児童は楽しみにしており、教育効果も高いので、今後も状況を見極めつつ地域での学びの機会を増やし、学校HPや学年だよりなどで児童の様子を発信していきます。

15. 情報発信

あなたは、PTA(びーていーえー)や地域(ちいき)の方々(かたがた)が、学習(がくしゅう)や行事(ぎょうじ)、安全(あんぜん)の見守(みまもり)などで協力(きょうりょく)してくれていることを知(し)っていますか。



学校の教育活動の様子について認知している児童、保護者、教職員共に「そう思う、少し思う」が9割を超えています。学校説明会や、オープンスクール、学校や学年からのお便り、HP、ミマモルメなど様々な形での伝達を心がけてきたことの成果だと思えます。また保護者の皆様や地域の方の協力があるからこそ児童の認識も深くなっていることだと感じます。今後も情報発信を積極的に行えるよう環境を整えていくようにします。